

会員の皆様へ ～会費を納めていただくにあたり、心からのお願いです～

2023.9 伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会長

同窓会の継続的な運営と母校への支援のため、同窓会費の重要性やその用途について説明します

1. 同窓会の運営費

一年間の同窓会組織運営のために必要となる経常経費は、事務費（報酬、光熱水費、通信費、印刷費、事務用品等）に約300万円、事業費（総会費、広報費）に約150万円、教育支援費に約230万円、その他雑費を足して、通常、年間に約700万円が必要となり、円滑な運営に欠かせない経費です。これらの費用は会費により賄われています。

2. 母校と生徒支援

同窓会では、母校に対して県費だけでは賄いきれない部分への教育活動支援を迅速に行なうことが目的の一つです。昨年度の教育活動支援としては、学校教育の中で重要なアイテムとなっている、オンライン学習を充実させるためのズームのライセンス権取得への資金援助を継続して行ないました。併せて探究学習への支援をはじめ、充実した教育活動を進めるため、資金面での支援を中心に行なってきました。これまでも学校の施設設備の整備や備品購入などの支援を行ってきており、私たちが納めている会費により、学校の施設設備の充実、そして子どもたちの学びの環境の改善に貢献しています。

同窓会は今、次のような問題を抱えています。

1. 支部組織の観点から

現在本会には上伊那地域に46の支部組織があり、会費の集金は支部役員を通してご協力いただいています。しかしその中には支部長が不在となっている支部が3支部、支部長が選出されていても組織が機能していない支部、また集金していただいている支部であっても、なかには集金にご協力いただけられない地区などもあり、コロナ禍後は特に集金が難しい状況となっている支部です。また、会員の皆様へ配布する会報などが、何年も支部役員の手元に置かれたままとなっている事態があることもわかりました。

〈平成24年度から会費制を導入して以来、納入状況をまとめたデータから次のような傾向がわかります〉

○ 会費納入率の比較 集金の場合⇒30～40% 振込の場合⇒5%未満

○ 郵送費の増加 集金できない支部について郵送するため、安価な宅配業者を利用しても一通当たり70円となり、上伊那地域だけでも40万円（昨年度会費納入金額の約1割）の経費が増加します。これは年会費

400人分（昨年度会費納入者数の2割強）にもなります。

※経費が多くなるのに比して、会費納入が少なくなることが明らかです。

支部や地域が抱える特有な課題については、本会として十分に対処できない面もありますが、支援の機会を創出し、組織が少しずつ機能できるよう協力関係を築いていきたいと思えます。当面今年度については、単年度措置として、支部組織が機能していない支部については、会費納入依頼の文書を会報に同封し、直接会員宛郵送いたします。振込用紙により終身会費あるいは年会費の振込をお願いいたします。

2. 会員意識の観点から

そもそも任意団体である同窓会ですので、お願いする会費はもちろん強制できなく任意です。あくまでも皆様の温かいお心でご協力いただいているものです。しかしながらもし…

強制じゃないんだから、出す必要はないでしょ！

友達に聞いたら“出さない”って言ってたから、私も出さないわ！

そもそも県立高校なんだから、県予算でやるべきでしょ！

会費なんて、何に使われているのかわからないから、そんなものに出すことないんじゃない！

このような認識をお持ちでしたら、それは誤解です。

このようにただく会費については毎年決算報告をさせていただいているとおり、会の運営と母校と生徒の支援に有効に活用させていただいています。県の予算も限られているため、学校にかけられる金額も制約されています。県費だけでは賄いきれない部分への支援を迅速に行うことができるのが同窓会です。2020年、コロナ感染が急激に拡大し、学校が休校となった折り、いち早く高額なズームライセンス権を取得し学校に寄贈したことにより、生徒と学校がオンラインで繋がりを、制約が多い中でも自宅学習やコミュニケーションをとることができました。今も様々な場面で活用されています。

現在学中に、終身会費の一部15,000円を3年間で納めていただく制度がありますが、ご家庭のご理解をいただき、全員が納めてくださっています。全校生徒600人で年間300万円の会費納入額となり、全会費収入額の3割となります。在校生は全員が納入している一方で、一般会員の納入率は4割弱である状況は、母校と生徒を支援するという組織である同窓会という視点から考えると、憂慮すべき課題であります。会員の同窓会活動に関する関心度が低いことに対して、本会として同窓会の活動や成果、母校や生徒の様子などを積極的に情報提供し関心を喚起し、これらの取り組みを通して会員の母校に対する意識の醸成を図ることができたらと思っています。

3. 高校統合後の同窓会の未確定性の観点から

閉校後の同窓会の運営や展望が不確定であるため、会費納入に消極的な姿勢である方がいらっしゃることを推察します。会費について心配されているかと思いますが、会員個々の納入状況などのデータ、会費の使途や積立金などに関する対応について十分な検討を行い、適切に処理します。またこれまで納めていただいた会費、終身会費は閉校後も有効に使われるよう万全な対応をいたします。

閉校した母校の将来活用や同窓会の今後のあり方を考える中でその財源として活用することもできます。また母校の歴史や財産を保存、継承するための活動、新校同窓会が設立されるまでのサポートの提供なども考えられます。適切に処理し、意義ある目的に使うべく今後協議を重ねていきます。現時点ではご報告できる明確な決定事項はありませんが、今後方向性が決まり次第適宜報告をしていきます。

会費納入について 会報4ページの内容を再掲

《金額》

25,000円（終身会費）

※ 平成24年度から納めていただいていた分を含めますので、すでに納入された金額については事務局までお問い合わせをください。但し④の「年齢による特別措置」により納めていただく場合は除きます。

次のいずれかの方法をお願いします。

① 25,000円を一括納入 ② 59歳までに15,000円、60歳時に10,000円を納入 ③ 毎年1,000円を納入

④ 特別措置として、次の年齢の方はこの金額で納入していただけます。

・60歳以上：10,000円 ・70歳以上：5,000円 ・80歳以上：名譽会員のため会費はいただきません

※今年度、年齢による特別措置での金額、あるいは終身会費を納めていただく、来年度以降、地区役員の集金と納入の間を省くことができます

私たちにとって弥生ヶ丘は単なる教育機関ではなく、私たち同窓生の人生の重要な一部であり、多くの思い出やつながりを築いた大切な場所であり、また、母校の歴史と伝統を称えあうことのできるのと同じ学び舎で高校生活を送った同窓生だからこそです。明治44年に地域の願いを受けて創立した伊那高等実科高等学校は、その時々時代の變化に合わせて成長し新たな道を切り拓いて、現在まで112年の歴史をたどってきました。教育方法やカリキュラムは時とともに変わりましたが、その中心には学びへの情熱を持つ生徒と、生徒一人一人を大切に、知識だけでなく人間性や社会性をも教えてくれた先生方がいます。母校伊那弥生ヶ丘高校の同窓生はその温かな校風と伝統を胸に刻み、今様々な場所へ支援や協力を活かしています。だからこそ母校に対しての感謝の気持ちを持ち続け、同窓生として、母校と生徒へ支援や協力をすることは大切な役割だと思っています。

閉校が近づいている状況ではありますが、今現在母校で学んでいる生徒が最後まで精いっぱい高校生活を送ることができるよう、私たち同窓生として心からの温かい思いを込めて支援をしませんか。残念ながら県の予算も限られているため、学校にかけられる金額も制約されています。そのため教育環境にも影響が出る可能性があります。実際、今エアコンが整備できていない特別教室で、猛暑の中授業をしている状況です。私たちの温かい支援の気持ちを寄せることで、学校の資源や施設の充実、そして子どもたちの学びの環境の改善に貢献できるのです。お一人お一人の会費で是非後輩を見守ってほしいと切に願っています。今の母校と後輩、そして同窓会を大切に思っていたら、いと、心よりお願い申し上げます。